

# 石神中学校だより14号

発行日：令和4年11月 2日

2022重点目標「自ら学び、共に高め合いながら夢の実現のために努力する生徒」文責：校長 佐藤恭司

## ＜読書感想文コンクール特選Ⅱ＞

「スペシャルQトなぼくら」を読んで  
一年 渡部 咲音

もし、同級生の男子が化粧をして街を歩いているのを見かけたら、私はどうするだろう。

きっといけないものでも見たような気がして、見ないふりをしてその場から立ち去ってしまうのではないだろうか。でも、ナオは違った。ユエが化粧をし、ウィッグをつけ、さらに女性用のかわいらしい服装をして古着屋を見て回っているのを見ても、ちょっと驚いただけだ。しかも、女性のような格好をしたユエの姿を見たことを本人に伝え、「ユエの変身がすごかった」と素直にほめてもいるのだ。

私は、そんなユエの行動力と勇気に感心した。ユエは、周りに自分を理解してくれる人や共感してくれる人がいない孤立した状況でも、自分が好きなものは「好き」と言うことができる。周りの意見に流されず、化粧をしたりかわいい服を探して古着屋めぐりをしたりすることができるのも、そうしたユエの性格があるからだ。私がユエの立場だったら、そんなことはできない。家族や友人、街を歩く見知らぬ人たちといった周りの目が気になるからだ。ユエには、自分が思ったことを行動にうつすことができる強さがある。でも、本当はさびしい気持ちも持っていたのではないだろうか。私がそう思ったのは、ナオと出会ってからのユエが、とても生き生きしていたからだ。自分の好きなものを共感してくれるナオと出会うことで、ユエは一人のときよりもとても楽しんでるように思えた。一人で楽しむのもいいが、やはり自分を理解してくれる人がいて、似たような価値観で同じ話題を話せるからこそ、好きなものを楽しむことができるのだと思う。

しかし、趣味や好みの範囲ならいいが、性別についての考え方や価値観の違いはどうだろうか。「LGBT」という言葉を新聞やニュースなどでよく見かけるようになった。これは、同性愛者やトランスジェンダーなどの頭文字をつなげた言葉である。L（レズビアン）とG（ゲイ）は、同性愛者。B（バイセクシュアル）は、男女両方が恋愛対象になる人のことだ。でも、ユエはそのどれでもない。私はこの本を読んで、初めて「LGBTQ」という言葉を知った。「Q」は、「クエスチョニング」のこと。自分が男性なのか女性なのかわからない人、恋愛対象が異性なのか同性なのかわからない人のことを指す。ナオはユエと仲良くなるにつれて、どんどん心がひかれていった。ナオ自身も、小さい頃

はかわいいものが好きだったが、「男がかわいいものを好きだなんて」という周りの視線を気にして、いつの間にかその気持ちを隠すようになった。そして、自分でもそんな気持ちがあることすら忘れていた。しかし、ユエと一緒にいることで、ナオはその思いを素直に出せるようになったのだ。かわいいものが好きな気持ちは、男でも女でも関係ないと私は思う。

しかし、恋愛が関係してくるとどうなのだろう。ナオは、だんだんユエを恋愛対象として見るようになってきたのだ。「かわいいものが好き」と「同性の人が好き」というのは、かなり違う。「もの」ならば自分の好き嫌いだけですむが、「人」は相手の思いも関わってくるからだ。しかも、ユエはアロマンティック・アセクシュアル、つまり、性的欲求や恋愛感情を持っていない。アセクシュアル自体は、それほど珍しいものではない。世界の人口の1%程度はいるともいわれているくらいなのだ。でも、自分は相手のことを恋愛対象として思っているのに、相手は自分のことを友人としかみていない、というのはつらいと思う。でも、そんな状況でも、お互いの思いを正直にぶつけ合うことができるからこそ、二人は関係を続けていけたのだろう。傷つくことはあるかもしれないが、お互いをわかり合うためなら、私も正直に話した方がいいと思う。

私はこの本を読むまでは、ジェンダーに関する問題をほとんど気にしていなかった。しかし、自分自身が気がつかないだけで、「LGBTQ」と関わっている人もたくさんいるのではないかと思うようになった。もしかしたら、意外と私の身近にもある問題なのではないかとも思った。日本は先進国の中でも、男女格差が大きい国と言われている。「男の子だから」、「女の子だから」と言われたことがある人は、きっと多いと思う。また、服装も男女で違うことはよくある。特に学校の制服は、男子がズボン、女子がスカートのところほとんどだ。私の通っている中学校は、今年から女子もズボンを選択できるようになった。見た目の服装で男女を区別しないことも、私たちの意識を変えるきっかけになっていくのではないだろうか。私は「男だから」「女だから」と言っている人の方が恥ずかしい、そんな世界に変わればいいと思う。

私自身も、差別や偏見をしないよう、これからも「LGBT」、「LGBTQ」の問題について学んでいこうと思う。



## 令和4年度石神中学校文化祭開催 Color ～僕らで染めるそれぞれの色～



10月29日(土)、文化祭が開催されました。1学期から生徒会、実行委員会が中心となり、様々な企画と催し物、合唱、有志発表、吹奏楽部演奏などの準備を進めてきました。各委員会では3, 2, 1年生が協力をしながら、企画運営や制作に励む姿は、ほほえましい光景の一つだったと思います。多忙な学校生活の中でも粛々と進めてきた結果、記憶に残るイベントを完成することが出来ました。各学級で発表した合唱は、これまでの練習が曲として築き上がる瞬間、クラスが一つにまとまる光景を見ることが出来ました。また、全校生・全職員で制作したビックアートは圧巻で、保護者の皆さん方からも驚きと感動の声が聞かれました。これまでの準備と運営に携わった多くの皆さんに改めて御礼を申し上げます。最後に、この文化祭で得た経験や友情、喜び、苦勞、失敗、悔しさなどを思い出に終わらせるのではなく、学校生活や日常生活など次のステップに活かしてほしいと思います。年々進化をしつづけている本校文化祭でした。



## スタントマンによる交通安全教室を行いました!

10月21日(金)に全校生徒対象にスケアード・ストレート(スタントマンによる交通安全教室)を実施しました。本校は、県道34号線に接し、朝夕の交通量は多く、交通事故が懸念されています。年間計画の中で、安全教室を実施し、事故防止に努めていますが、生徒らがいつ交通事故に巻き込まれるかわかりません。今回、有限会社シャドウ・スタントプロダクションより、6名のスタントマンが来校し、実際に起きた交通事故や注意しなければならない実例をリアルに再現していただきました。依然として多い自転車事故として、スマホをいじりながら、傘を差しながら、二人乗り、歩道でのスピードの出し過ぎなどの例があります。本校のほとんど生徒は、初めて見る実演に驚きと交通事故の怖さをあらためて感じていたようです。交通事故に遭わないためにも自転車など、正しい乗り方をして欲しいと思います。

スタントマンによる事故再現

